

地域学校協働連携NEWS



こちらの二次元コードから、閲覧・ダウンロードができます →

檜枝岐中学校・老人クラブ 舞殿清掃

5月7日(木)、檜枝岐中学校と檜枝岐村老人クラブ連合会による協働活動「舞殿清掃」を訪問しました。この活動は約20年継続され、愛宕神と鎮守神の祭礼で奉納される檜枝岐歌舞伎の上演に合わせ、5月と8月に行われています。会場を清める意味と歌舞伎を見に訪れるお客さんを気持ちよく迎える意味が込められています。当日は歴史を感じさせる石段の隙間に生えた草を、鎌や熊手を使って一所懸命に取り除き、散らばった落ち葉を竹箒で丁寧に掃き清める生徒たちの姿がありました。



始まりのあいさつ



竹箒を使っでの清掃



客席となる石段の草むしり

生徒の感想



地域の方と交流をしながら活動できることはよい機会でした。歌舞伎を見に来てくださる方が、気持ちよく過ごせるように一生懸命取り組みました。
(中2 星 愛士 君)



中学3年生なので、この活動も秋で最後になってしまいます。観光に来られた人たちが気持ちよく観覧できるように、一生懸命清掃活動に取り組みました。(中3 平野 瑠己 君)



村の活動に貢献できることが、とてもうれしく思います。将来、大人になってもこのような活動に積極的に参加したいと思います。
(中3 森 心優 君)

生徒からは、地域の方との交流の大切さや活動の大切さ、地域へ貢献したいなどの言葉が自然に出てきました。小野校長先生から家庭教育、地域教育、学校教育が一体となって「郷土愛」を育てているので、郷土を愛する気持ちが自然に言葉として出てくる場面が多くあるとのことでした。今後も郷土を愛する気持ちを育ててほしいと思います。

檜枝岐村老人クラブ連合会会長の星昭二さんに話を伺いました。「中学生と合同で清掃活動を行うのは20年以上になると思います。この活動をとおして、祭礼がなぜ執り行われるのか、奉納歌舞伎の意味などについても作業しながら中学生に話すことがあります。単にきれいにするだけでなく、村の子ですから『祭礼が近づいていること』をこの活動を通して肌で感じ取ってほしいと思っています。」と語ってくださいました。舞殿清掃は単なる共同作業としてだけではなく、会話を通じて村として大切にしていきたいことを若い世代に直に伝えていく役割も担っています。世代を超えた村人が「協働」で取り組むことに大きな意味があることを感じました。